

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3242956号
(U3242956)

(45)発行日 令和5年7月26日(2023.7.26)

(24)登録日 令和5年7月18日(2023.7.18)

(51)国際特許分類	F I			
A 4 1 D 13/12 (2006.01)	A 4 1 D	13/12	1 9 0	
A 4 1 D 1/06 (2006.01)	A 4 1 D	13/12	1 4 5	
	A 4 1 D	13/12	1 5 4	
	A 4 1 D	1/06	5 0 2 E	
評価書の請求 未請求 請求項の数 6 書面 (全6頁)				

(21)出願番号 実願2023-1904(U2023-1904)	(73)実用新案権者 523204857
(22)出願日 令和5年5月15日(2023.5.15)	パディーズ株式会社 広島県福山市水呑町1 7 8 1 番地 1
	(72)考案者 ▲高▼田 隆治 広島県福山市水呑町1 7 8 1 番地 1 パ ディーズ株式会社内

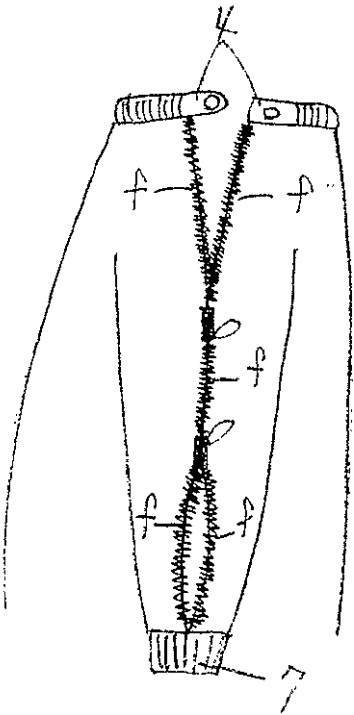
(54)【考案の名称】 入院・診察・介護用衣服

(57)【要約】 (修正有)

【課題】着脱、診察、治療及び各種の介護処理等を行う際に着用者又は介護者にとって利便性かつ作業性の良い入院・診察・介護用衣服を提供する。

【解決手段】入院、診察あるいは介護用に使用される上着であって、この上着は両肩ともに肩から袖口7までの開きとして線ファスナーfで両方向すなわち肩から袖口7へ袖口から肩へと開閉自在とし、脇部は両脇ともに腰部から脇までの開きとして脇部線ファスナーで開閉自在とし、また入院、診察あるいは介護用に使用されるズボンであって、このズボンは両脇ともに脇から裾口までの開きとして線ファスナーで両方向すなわち脇から裾口へ裾口から脇へ開閉自在とし、さらに入院、診察あるいは介護用に使用される衣服は、上述の上着とズボンの上下一對とから成る。

【選択図】図7



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

入院、診察あるいは介護用に使用される上着であって、前記上着は両肩ともに肩から袖口までの開きとして線ファスナーで両方向に開閉自在とし、脇部は両脇ともに腰部から脇までの開きとして脇部線ファスナーで開閉自在としたことを特徴とする入院・診察・介護用上着。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の入院・診察・介護用上着において、両肩ともに肩から袖口までの開きとして用いられる線ファスナーは肩から袖口へ袖口から肩へと両方向に開閉自在とし、この線ファスナーには 2 つのスライダーが具備され、さらにその肩口には開き具が袖口には下止が具備されていることを特徴とする入院・診察・介護用上着。

10

【請求項 3】

入院、診察あるいは介護用に使用されるズボンであって、前記ズボンは両脇ともに脇から裾口までの開きとして線ファスナーで両方向に開閉自在としたことを特徴とする入院・診察・介護用ズボン。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の入院・診察・介護用ズボンにおいて、両脇ともに脇から裾口までの開きとして用いられる線ファスナーは脇から裾口へ裾口から脇へと両方向に開閉自在とし、この線ファスナーには 2 つのスライダーが具備され、さらにその脇には開き具が裾口には下止が具備されていることを特徴とする入院・診察・介護用ズボン。

20

【請求項 5】

入院、診察あるいは介護用に使用される衣服であって、前記衣服は上下一対の上着とズボンとから成り、前記上着は両肩ともに肩から袖口までの開きとして線ファスナーで両方向に開閉自在とし、脇部は両脇ともに腰部から脇までの開きとして脇部線ファスナーで開閉自在とし、また前記ズボンは両脇ともに脇から裾口までの開きとして線ファスナーで両方向に開閉自在としたことを特徴とする入院・診察・介護用衣服。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の入院・診察・介護用衣服において、上着の両肩ともに肩から袖口までの開きとして用いられる線ファスナーは肩から袖口へ袖口から肩へと両方向に開閉自在とし、この線ファスナーには 2 つのスライダーが具備されるとともにその肩口には開き具が袖口には下止が具備され、またズボンの両脇ともに脇から裾口までの開きとして用いられる線ファスナーは脇から裾口へ裾口から脇へと両方向に開閉自在とし、この線ファスナーには 2 つのスライダーが具備されるとともにその脇には開き具が裾口には下止が具備されていることを特徴とする入院・診察・介護用衣服。

30

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、入院、診察あるいは介護用に使用される衣服に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

40

従来、入院、診察あるいは介護用に使用される衣服は、次の（１）～（５）に示す問題が指摘されている。

（１）四肢の麻痺や拘縮のある老人に対して、着脱が不便であり、特に体重の重い老人や、着脱を嫌がる老人は着脱時、全身で抵抗する為、介護人一人では着脱が出来ず、着脱時には複数の人出を要する。

（２）ズボンについては睡眠中または寝たきり老人は自分で腰を上げられず、オムツ交換が困難で、介護者の腰に負担が掛かり、介護者の腰痛の原因となるこれは診察、各種の処理の時も同様である。

（３）脇部の開閉も出来る衣服やパジャマが少なく着脱が不便である。

（４）つなぎタイプの衣服やパジャマも同様である。

50

(5) 外出には向いていないデザインで外出の為の着脱も不便である。

これらの問題に対応するため、入院、診察あるいは介護用に使用される衣服は、介護者等の負担を軽減するために身体の各部位が開きやすいように例えば上着やズボンでは特許文献1～3に、またつなぎ服では特許文献4に示すようなファスナーを用いた衣服やパジャマが提案され実用化されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開平10-121308号公報

【特許文献2】特開2021-179061号公報

【特許文献3】特開2010-106371号公報

【特許文献4】特開2004-344563号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

上述のように従来の介護用衣服等はファスナーを用いた衣服やパジャマが提案され実用化されているが、これらのファスナーは片方向開閉可能のタイプのみであったため、必要な身体の部位を出す場合に部位によってはファスナーを全開しなければならず、また衣服を着脱する場合も作業性が悪いという課題があった。

本考案は上記課題を解決するため、介護用衣服等の着用者又は介護者の利便性及び作業性の良い入院・診察・介護用衣服を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本考案の入院・診察・介護用衣服は、入院、診察あるいは介護用に使用される上着であって、前記上着は両肩ともに肩から袖口までの開きとして線ファスナーで両方向すなわち肩から袖口へ袖口から肩へと開閉自在とし、脇部は両脇ともに腰部から脇までの開きとして脇部線ファスナーで開閉自在とし、また入院、診察あるいは介護用に使用されるズボンであって、前記ズボンは両脇ともに脇から裾口までの開きとして線ファスナーで両方向すなわち脇から裾口へ裾口から脇へ開閉自在とし、さらに入院、診察あるいは介護用に使用される衣服は、前記上着と前記ズボンの上下一対とから成ることを特徴としている。

【考案の効果】

【0006】

本考案の入院・診察・介護用衣服を使用すれば次の効果を奏する。

(1) 両方向両肩開きで、四肢の麻痺や拘縮のある人でも、無理のない着脱が出来る。

(2) 診察、各種の処理、各種の治療、注射時に簡単に開閉ができ、老人、介護者、医療従事者に便利である。

(3) ズボンを両方向両脇開きにすることで、オムツ交換、診察、治療、各種の処理(例えば、尿バルーンのルートも無理なく出せる)また、両方向開きにすることで大腿部や膝等の部分を出すときも腰部分を下に下げることなく出すことが出来る。

(4) 抑制用上着は背部でシワにならず、床擦れの予防にもなる。

(5) いままでのパジャマと違い、散歩など外出着として着用できるので外来治療時にも用いることが出来る

従って、本考案の入院・診察・介護用衣服は、着脱時の老人の負担を軽減し、介護者の負担を最小限にし、更に医療行為時の時間短縮を可能にすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本考案に係る入院・診察・介護用上着の正面図を示す。

【図2】本考案に係る入院・診察・介護用上着の背面図を示す。

【図3】本考案に係る入院・診察・介護用上着の左側面図を示す。

【図4】本考案に係る入院・診察・介護用ズボンの正面図を示す。

【図 5】本考案に係る入院・診察・介護用上ズボンの背面図を示す。

【図 6】本考案に係る入院・診察・介護用ズボンの左側面図を示す。

【図 7】図 3 の入院・診察・介護用上着の使用状態を示す図である。

【考案を実施するための形態】

【0008】

以下、本考案を実施するための形態について実施例によって、図面を参照しながら説明する。

【実施例】

(1) 上着 1 について (請求項 1 ~ 2 に記載の入院・診察・介護用上着)

図 1 ~ 3 は本考案に係る入院・診察・介護用上着 1 のそれぞれ正面図、背面図、右側面図を示している。従来の前開き、または後開きを両肩開きとし、両肩ともに肩から袖口までの開きを線ファスナー f で両方向すなわち肩から袖口へ袖口から肩へと開閉自在となっているため必要な身体の一部を出すときに全開することなく線ファスナー f のスライダー部の引き手の操作により局所的に開くことができる。この線ファスナー f には請求項 2 に記載のように 2 つのスライダーが具備され、その肩口には開き具が袖口には下止が具備されることで上記のような局所的な開きを実現している (図 7 参照)。

両肩部の線ファスナー f の開き始め部位の後身ごろに短冊型の上着布片 4 の一端を取りつけ、他端をスナップボタンで前身ごろに止められるようにしている。頭よりかぶり、または、下からはき上に持っていくようにするため筒状にしている。

また、上着の脇は、着脱が楽にできるように脇部線ファスナー 3 で下から上に開閉可能としている。

(2) ズボン 2 について (請求項 3 ~ 4 に記載の入院・診察・介護用ズボン)

図 4 ~ 6 は本考案に係る入院・診察・介護用ズボン 2 のそれぞれ正面図、背面図、右側面図を示している。両前開きとして、両脇ともに脇から裾口までの開きとして線ファスナー f で両方向すなわち脇から裾口へ裾口から脇へ開閉自在となっているため上着と同様に必要な身体の一部を出すときに全開することなく線ファスナー f のスライダー部の引き手の操作により局所的に開くことができる。この線ファスナー f には請求項 4 に記載のように 2 つのスライダーが具備され、その脇には開き具が裾口には下止が具備されることで上記のような局所的な開きを実現している。両脇部の線ファスナー f の開き始め部位に短冊型のズボン布片 5 の一端を取りつけ、他端をスナップボタンで止められるようにしている。ズボン布片 5 は腰回りの抑制のためのものである。また、線ファスナー f の開き止まり部位は裾とし、腰回りには、収縮させるためウェストゴム 6 を前身ごろ、後身ごろにほどこしている。

(3) 上下衣服について (請求項 5 ~ 6 に記載の入院・診察・介護用衣服)

上述の上着 1 とズボン 2 をセットにしたもので色彩や柄などを上下合わせたものである。

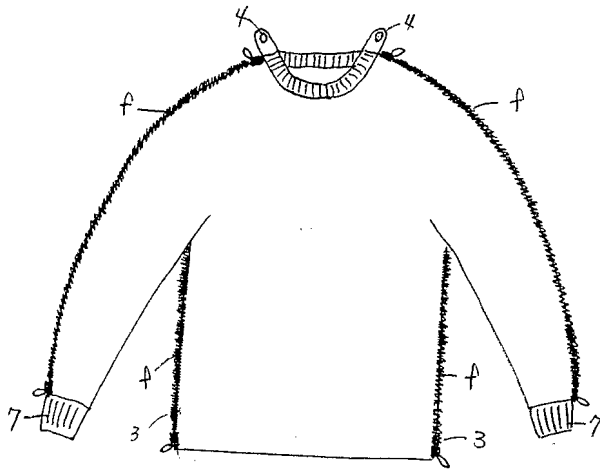
【符号の説明】

【0009】

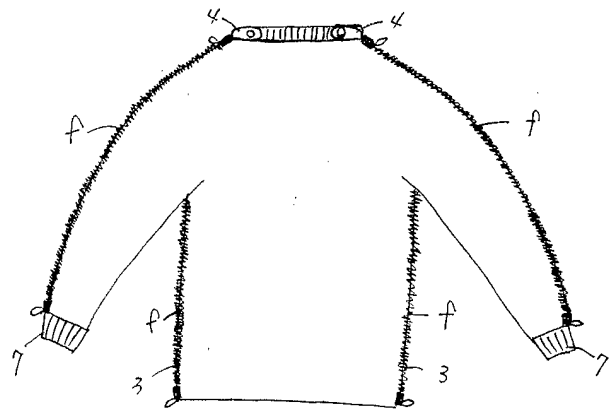
- f 線ファスナー
- 1 上着
- 2 ズボン
- 3 脇部線ファスナー
- 4 上着布片
- 5 ズボン布片
- 6 ウェストゴム
- 7 袖部 (リブ)
- 8 裾部 (リブ)

【図面】

【図 1】

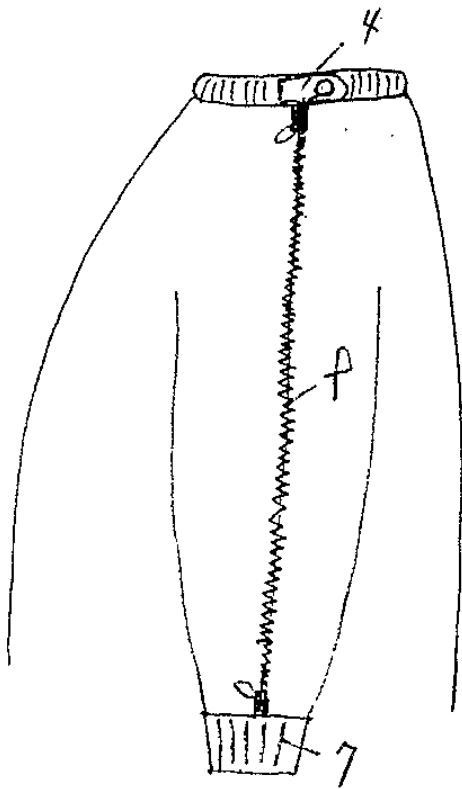


【図 2】

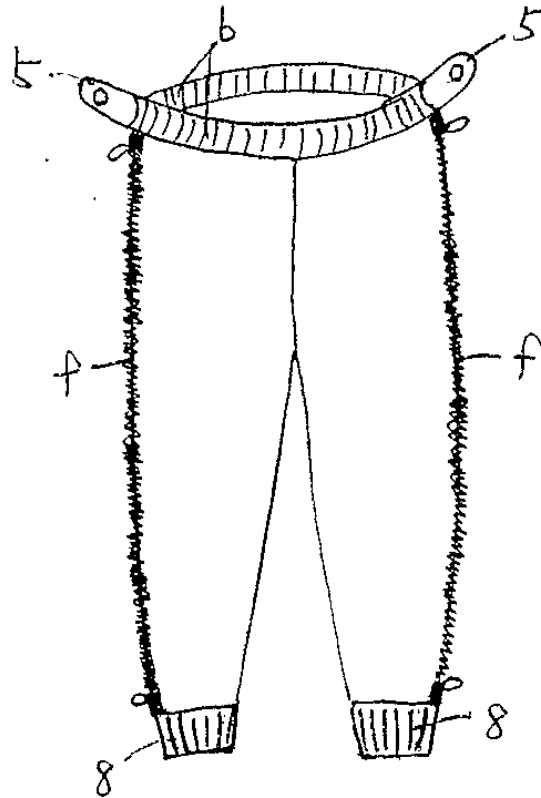


10

【図 3】



【図 4】



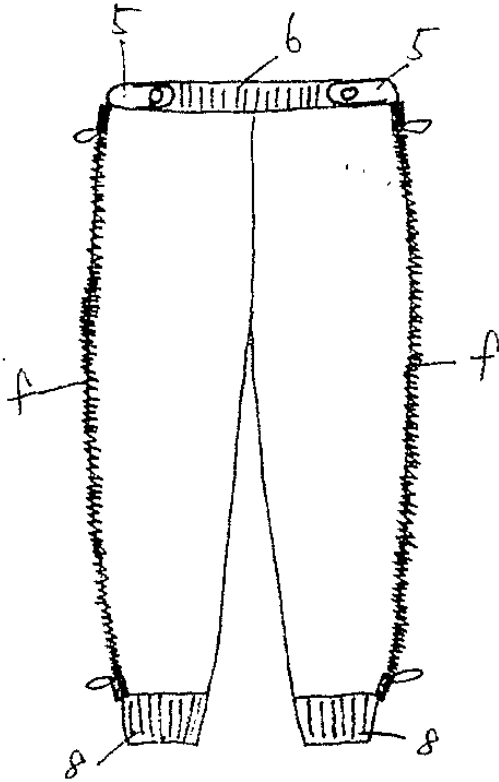
20

30

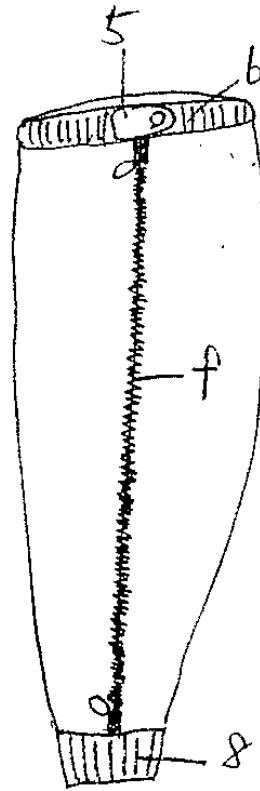
40

50

【図 5】



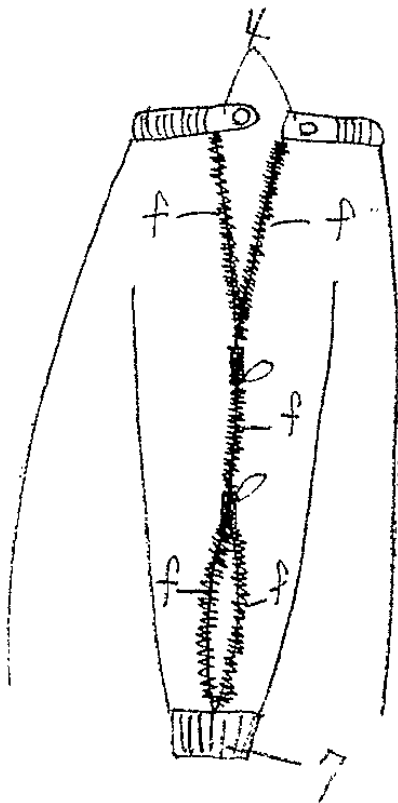
【図 6】



10

20

【図 7】



30

40

50